

## 【中干し後の水管理】

・中干しは、遅くとも幼穂形成期前に終了すること。本年は、生育が旺盛で、幼穂形成期が早まると予想される。参考までに、農業センター5月10日植え稚苗ササニシキの6月23日時点における幼穂形成始期の予想は、7月8日頃で、平年より4日早い予想。

・中干しした圃場の表層は、酸化状態にあるので、中干し後すぐに湛水状態にすると急激に還元が進み根を傷める。このため、中干し後の水管理は、走り水をしてから間断かんがいをする。

・幼穂形成期以降、低温注意報等が発令された場合は、ただちに深水管理とし、幼穂の保護に努める。水深は、幼穂保護のため幼穂の伸長に併せて段階的に5~10cm程度とする。

・深水が保てるよう畦畔等の補修を行うとともに、地域として深水かんがいができる用水管理体制を整えておく